

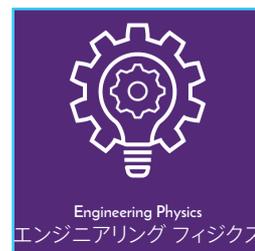
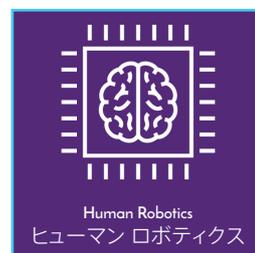


筑波大学 大学院 理工情報生命学術院 システム情報工学研究群
知能機能システム学位プログラム

Master's and Doctoral Programs in Intelligent and Mechanical Interaction Systems
Degree Programs in Systems and Information Engineering
Graduate School of Science and Technology, University of Tsukuba



IMAGINE THE FUTURE



2026-2027



○ 学位プログラムへの誘い

皆さんは、「知能」という言葉から何を連想するでしょうか。高度な計算や推論を行う人工知能を思い浮かべる方も多いかもしれません。しかし、知能とは単なる計算能力にとどまるものではありません。不確実な環境の中で構造を見出し、適応し、判断し、新しい価値を創造する力、それもまた知能の本質です。

では、「機能」とは何でしょうか。

それは、知能が物理世界に実装され、社会や自然の中で具体的な作用として現れるかたちです。人を支援するロボット、脳の動きを解明する神経工学、リアルとバーチャルをつなぐXR技術、人や環境を対象とする物理・工学システム。知能が人間・社会・自然界と関わりながら発揮されるとき、それは機能として世界を動かします。

「知能機能システム」とは、知能と機能を分けて考えるのではなく、両者を統合的に設計する学問領域です。情報と物理、理論と実装、人間と人工物、それらの境界を越え、多様な要素が連携協調する新しい工学システムを創出することを目指しています。

○ 人材養成目的

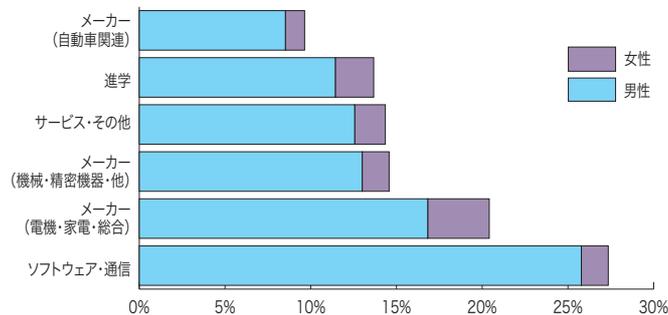
博士前期課程 Master's Program

工学分野の基礎知識と倫理観を備えるとともに、知能機能システムに関する専門知識と技術、研究能力を身に付け、広い視野に立って問題を発見し解決できる高度専門職業人を養成します。

○ 修了後の進路

知能機能システム学位プログラムを修了した学生は、様々な分野の企業や研究所などで活躍しております。

以下は、旧課程（知能機能システム専攻）における実績です。



博士前期課程修了者の進路

博士前期課程修了後の就職先の主な分野は、情報・通信ネットワーク (DeNA、NTT、NTTコミュニケーションズ、ソフトバンク、楽天、NTTデータ、NTTドコモ、任天堂、KDDI、ヤフーなど)、メーカー (電機・家電・総合：日立製作所、ソニー、パナソニック、三菱電機、富士通など)、メーカー (機械・精密機器など：オリンパス、リコー、キヤノン、京セラ、コマツ、三菱重工業、ヤマハ、シチズン、カシオ、マブチモーターなど)、メーカー (自動車関連・他：デンソー、トヨタ、本田技研、日産、豊田自動織機、マツダ、SUBARU、アイシン精機、ダイハツなど)、サービス・その他 (JR 東日本、東京電力、新日鐵住金など) です。

(2021~2024 年度の修了者)

○ 主な施設



本学位プログラムは、エンジニアリングフィジクス、ヒューマンロボティクス、ニューロエンジニアリング、XR・メディアという四つの専門領域を擁し、それぞれの分野で国際的に活躍する研究者が教育・研究に携わっています。また、つくば研究学園都市という環境を活かし、産業技術総合研究所をはじめとする研究機関との連携大学院制度を通じて、学際的かつ実践的な研究機会を提供しています。

本プログラムには、多様な学問的背景を持つ学生が国内外から集っています。複数指導教員による対話的な研究指導体制のもと、基礎から専門までを段階的に修得できるカリキュラムを整備し、異なる視点に触れながら研究を深化させることができます。挑戦を支える教育環境もまた、私たちの大切な特色です。ここでの学びは、既存の技術を習得することにとどまりません。未知の領域に踏み出し、自ら問いを立て、教員と共に探求しながら、新しい社会像を構想するための出発点です。知能と機能を統合し、未来の社会基盤と共に設計してみませんか。

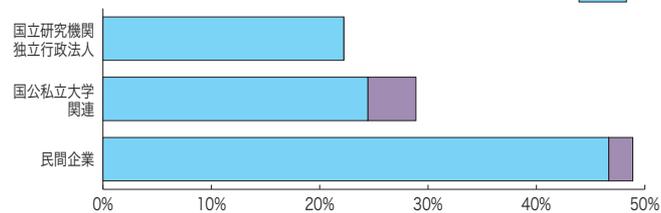
皆さんの挑戦を、私たちは全力で支えます。



知能機能システム学位プログラムリーダー
延原 肇

博士後期課程 Doctoral Program

工学分野の幅広い知識と倫理観、知能機能システムに関する高度な専門知識と技術、独創的な研究力を備えるとともに、広い視野に立って重要な問題を発見し解決することができる研究者または高度専門職業人を養成します。



博士後期課程修了者の進路

博士後期課程を修了した学生は、国公立大学関連 (筑波大学、電気通信大学、茨城大学、東京海洋大学、首都大学東京、豊橋技術科学大学、名城大学、豊田工業大学、千葉工業大学、岐阜高専、University of Verona、Max Planck Institute、University Malaysia Pahang など)、民間企業 (富士通研究所、NTT 研究所、三菱電機、島津製作所、スクウェア・エニックス、放送衛星システム、東芝メディカルシステムズ、CYBERDYNE など)、国立研究機関・独立行政法人 (産業技術総合研究所、国立スポーツ科学センターなど) で活躍しています。

(2021~2024 年度の修了者)



専門分野概要

大学院システム情報工学研究群	知能機能システム学位P	専門分野	概要
		XR・メディア	VR/MR、ハプティクスおよびメディアに関する学際的システム分野
		ヒューマンロボティクス	AI、サイバニクス、人間拡張、モビリティを含む学際的システム分野
		ニューロエンジニアリング	認知神経工学および工学的脳・神経基盤に関する学際的システム分野
	エンジニアリングフィジクス	人や環境を対象としたマクロ～メゾスコピックな学際的システム分野	
エンパワーメント情報学プログラム	人間情報学、バーチャルリアリティ、人間機械共生系、サイバニクス、認知心理学、ビジネス科学、芸術・デザイン学、感性情報学、臨床医学、リハビリテーション看護学		

○ 大学院教育の実質化と教育プログラムの特徴

学生に対する体系的な教育を提供する場として、教育の課程を修了した者に特定の学位を与える課程制大学院制度の趣旨に沿った教育の組織的展開の強化が求められています。本プログラムでは、次に示す施策によって大学院教育の実質化を図っています。

1. 博士前期課程と後期課程の接続強化

本プログラムは、博士前期課程と後期課程に区分するものの、他に例をみない5年間一貫した教育カリキュラムを整備しています。さらに学部に対応する工学システム学類の知的・機能工学システム主専攻と協力して、時代のニーズに合った技術者・研究者を育成するための、実質6年間(学部+修士)または9年間(学部+修士+博士)の一貫した教育プログラムを提供しています。博士前期課程または後期課程から入学した場合も、リメディアル教育を含む数学系基礎科目や特別実験等を履修することによって、同等の教育を受けることが可能です。

2. コンピテンス・ポイントに基づく達成度評価

学位授与時に学生が備えているべき知識・能力(コンピテンス)を確実に修得できるよう、コンピテンス・ポイントに基づく達成度評価システムを導入しています。達成度評価シートを用いて、学生自らが、どのコンピテンスが不足しているか、それを補うためにどの科目を履修すればよいかを自己点検し、計画的な科目履修を行えるようにしています。また、学会発表経験やTOEICの得点なども評価されるため、既にある程度の知識・能力を備えている社会人学生などの場合、自分の不足している部分を重点的に学ぶことができます。

3. 研究力育成を重視したカリキュラム編成(※内ページ参照)

各分野の専門知識を学ぶ専門科目のほかに、研究能力を高めるための共通科目としてコアスタディ・数学系基礎科目・ツール演習科目・英語演習・コラボラトリ演習・特別演習科目群が用意されています。

4. 複数指導教員制度

本プログラムでは、大学院生1名に対して、1名の主指導教員と2名の副指導教員が就く複数指導体制がとられています。学生は大学院セミナーの際は副指導教員より指導を受けることができ、自身の研究室だけでなく他の教員のゼミに参加することができます。このように複数の教員から多様で異なった観点からのアドバイスを受けることによって、自身の研究内容への理解が深まり、プレゼンテーション力の向上も図られます。教員と大学院生の距離の近さも、本プログラムの特徴の一つです。

5. 大学院セミナーの実施

せっかくの研究成果も、上手に発表しないと他の人には理解してもらえません。また、人の話を聞く立場になったときには、理解を深め自分に必要な情報を得るためにどういう質問をすればよいのか、という質問力も研究者・技術者には大切です。本プログラムでは、学生が自分の研究内容を発表し、その発表に対して質疑応答を行うという演習形式の講義を行っています。専門分野の枠を超えて、毎週、活発な議論が繰り返されています。発表者には、聴講する学生が感じた率直な意見がフィードバックされるようになっています。さらに秋学期末には、ポスター形式の発表会を実施しています。企業の方も多数来場されることから、一種の就活イベントとしても機能しています。

6. 連携大学院制度

つくば市には、筑波大学以外にも様々な研究機関があり、交流が盛んに行われています。本プログラムでは、(国研)産業技術総合研究所に所属する教員(連携大学院教員)に研究指導を受けて、学位を取得することができます。

7. デュアルディグリープログラムの実施(※詳細は別ページ参照)

本プログラムでは、主学位プログラムである博士後期課程に在学しながら副学位プログラムとして他研究群・他学位プログラムの博士前期課程・修士課程・専門職学位課程にも在学し、博士(工学)の他に他学位プログラムに対応する修士号を取得するDDPを実施しています。

8. 早期修了の積極的な推進(※詳細は別ページ参照)

8.1 社会人のための博士後期課程早期修了プログラム

8.2 一般学生の早期修了

9. 社会人学生への配慮

後期課程の場合、特別研究科目や論文発表演習科目など、主に指導教員から指導を受ける科目の履修だけで修了できます。そのため、研究業績のある社会人学生は、遠隔会議システム等を利用することにより、大学に来る負荷を低減することができます。また、前期課程においても、研究活動を単位化した科目を多数修得することにより、大学に来る負荷を低減することができます。

10. 学生表彰

顕著な成果をあげた学生は、学長表彰・研究群長表彰候補者に推薦されます。また本プログラムによる優秀修士論文賞・学位プログラムリーダー表彰が授与されます。受賞者は、日本学生支援機構第一種奨学金の返還免除対象者になる可能性が非常に高くなります。

Engineering Physics エンジニアリングフィジクス

人々や環境を対象としたマクロ～メソスコピックな学際的システム分野

村川 正宏 スマートシステムセンサネットワーク

若槻 尚斗 音響システム

新里 高行 群れなどの集団現象、学習、創発

濱崎 雅弘 オンラインコミュニケーションシステム、ソーシャルメディア

坂東 宜昭 環境音分析、ロボット聴覚、フィールドロボティクス

河合 新 制御理論、分散時間化、デスクリアシステム

古賀 弘樹 情報理論、情報セキュリティ、情報ハイディング

藪野 浩司 機械システム、力学系理論、非線形現象

海老原 格 通信システム、情報通信工学、船舶海洋工学

長谷川 学 システム工学、計算物理学

広野 雄士 非平衡物理学、機械学習、制御理論、システム生物学

家永 直人 深層学習、コンピュータビジョン

ゲン・ヴァン・チエト デジタル制御、電力システム、システムの分散化

Human Robotics ヒューマンロボティクス

AI、サイバニクス、人間拡張、モビリティを含む学際的システム分野

神村 明哉 自律分散システム、フィールドロボット、知能化

田中 文英 ソーシャルロボティクス

叶賀 卓 生体信号、基盤モデル、自己教師あり学習、継続学習

橋本 尚久 モビリティサービス、自動運転、MaaS、ITS

上原 皓 サイバニクス、医工学、IoT

中尾 篤史 物理法則に基づく深層学習、データ同化、数値流体力学

相山 康道 器用なロボット、マニピュレーションとその産業応用

河本 浩明 サイバニクス、人間・機械一体化

中内 靖 ヒューマン・ロボット・インタラクション、空間知能化

境野 翔 メカトロニクス、ロボティクス、マニピュレーション

山口 友之 計測情報工学、マルチメディアセンシング

ハサン・モダル サイバー・フィジカル、インターフェース、ウェアラブル技術

運動制御、運動学習、計算論的神経科学

金広 文男 ヒューマノイドロボット、動作計画及び制御

鈴木 健嗣 人工知能、拡張生体技術、人支援技術

望山 洋 柔軟ロボティクス、ハプティクス

伊達 央 非線形制御、ロボット制御、(自律移動、蛇型)

仏・ユチャン サイバー・フィジカル、エージェント、ソーシャルロボティクス

熊野 史朗 アフェクティブコンピューティング

脳卒中サイバニクス、運動機能障害

Neuroengineering ニューロエンジニアリング

認知神経工学および工学的脳・神経基盤に関する学際的システム分野

宇津呂 武仁 自然言語処理、人工知能、大規模言語モデル

手塚 太郎 神経情報科学、機械学習、時系列データ解析

森田 昌彦 生体情報処理、知的情報処理

熊野 史朗 アフェクティブコンピューティング

前田 祐佳 生体計測システム、在宅健康モニタリング

パラダス・ビクター 運動制御、運動学習、計算論的神経科学

井澤 淳 計算論的神経科学、生体運動学習機構、意思決定機構

坂無 秀徳 スマートシステム診断支援システム、画像処理

釣木澤 朋和 磁気共鳴画像、脳機能解析、医学物理学

川崎 真弘 脳コミュニケーション、脳科学、認知科学

澁谷 長史 機械知能、人工知能、機械学習、強化学習

鈴木 康裕 情報通信 / 人工知能、機械学習、ビックデータ

プエンテス・サンドラ 脳卒中サイバニクス、運動機能障害

XR / Media XR・メディア

VR/MR、ハプティクス、およびメディアに関する学際的システム分野

蔵田 武志 サービス工学、複合現実、AR

塚田 正人 画像情報、コンピュータビジョン、AIセンシング

掛谷 英紀 視覚メディア、メディア工学、3次元画像工学

星野 准一 エンタテインメントコンピューティング

蜂須 拓 触覚、身体接触、ウェアラブルデバイス

宮内 英里 認知脳科学、認知心理学、臨床心理学、ニューロンハンズメ

亀田 能成 画像情報、拡張現実、複合現実感、仮想現実

黒田 嘉宏 生体システム工学、医用人工知能

延原 肇 計算知能、UAV、ウェブインテリジェンス

善甫 啓一 人間拡張システム、環世界インタラクション、キメラ化インターフェース

ヤム・ヴィボル パーチャルリアリティ、感覚伝達、遠隔体験、ロボットクス

松本 啓吾 パーチャルリアリティ、空間知覚、時間知覚、個人最適化

AI生成コンテンツ

北原 格 コンピュータビジョン、実世界指向映像メディア、複合現実感

後藤 真孝 音楽情報処理、歌声情報処理、インタラクション

矢野 博明 パーチャルリアリティ、医療・福祉工学

橋本 悠希 感触工学、触覚インターフェース、運動・行動誘導

高谷 剛志 計算撮像、グラフィックス、視覚質、感度アプリケーション

謝 淳 コンピュータビジョン、拡張現実、AI生成コンテンツ

○ 研究力育成を重視したカリキュラム

知能機能システム学位プログラムでは、単に専門知識や技術を学ぶだけではなく、それらを活用して研究する力を育成することに重点を置いています。2017年度からはカリキュラムを再編し、演習や実践的な授業、研究を通じた能動的な学習を促す科目を充実させました。一方で座学中心の専門科目については、分野(システムデザイン、人間・機械・ロボットシステム、計測・制御工学、コミュニケーションシステム)ごとに統合や内容の見直しを行うことによって、授業密度をより高めています。

<博士前期課程>

- コアスタディ: 研究者倫理、研究計画の立案、論文の書き方、発表の仕方など、研究を行う上での基本的な知識や作法について学びます。
- 数学系基礎科目群: 学部レベルの数学の復習から始めて、専門科目の学習や研究に必要な基礎的な数理を学びます。
- ツール演習科目群: 研究上の必要性や有用性の高いソフトウェアおよびハードウェアのツールについて、使い方や関連技術を実践的に学びます。
- 特別実験: 数名でチームを組み、それまでに学んだ知識や技術などを用いて、テーマ演習やプロジェクト実習を行います。
- 英語演習: TOEICに対応したe-learningによって英語力の向上を図ります。(一定以上の英語力があれば、外国人教員による後期課程向けの授業も受講可能)
- 特別演習群: 大学院セミナーのほか、学会での研究発表や学術雑誌へ論文投稿を行うことによって単位を取得できる演習科目や、他分野のゼミ参加や他研究室との共同研究を行う演習科目、研究計画調書を作成する演習科目があり、研究活動を通じて幅広い知識や技能の習得を促しています。
- 特別研究: 1年次のポスター発表会、2年次の修士論文提出・発表に向けて各自の研究を実施する科目です。

<博士後期課程>

- 英語演習: 外国人教員による少人数授業により、プレゼンテーションスキル、ライティングスキル、ビジネスコミュニケーションスキルを高める科目です。
- 特別演習群: 国際会議発表演習、雑誌論文発表演習、計画調書作成演習のほか、他研究室へのゼミ参加や共同研究を行う演習科目があります。
- 特別研究: 博士論文の作成に向けて各自の研究を進める科目です。

○ 早期修了等の柔軟な履修・修了年次

社会人のための早期修了プログラム(博士後期課程)

博士後期課程を最短1年で修了し、課程博士号を取得できるプログラムを実施しています。一定の研究業績を有する社会人が、最短1年間で課程博士の学位が取得できるよう、論文の作成指導等に関して、効率的に体系化されたコースワークにもとづく早期修了プログラムを導入しております。ここでは、入学時、中間審査(入学後4ヶ月以内)及び予備審査(入学後8ヶ月以内)等の3ステージ以上において、課程博士の学位に相応しいレベルに達しているかを評価する達成度評価システムを確立しており、我が国の次代を担うべき優秀な研究者や高度専門職業人をサポートしています。

一般学生の早期修了(博士前期・後期課程)

博士前期課程において特に秀でた研究成果をあげ、かつ優秀な成績をもって修了要件を満たした学生に対して、博士後期課程へ進学する場合に限り、1年間短縮しての早期修了を実施しています。この場合、通常の博士前期課程と同一の修了要件となります。博士後期課程においても優れた研究業績があれば、1年以上の在籍で早期修了することが可能です。なお、博士前期課程を1年で早期修了し、博士後期課程でも早期修了する場合は、2年以上の在籍が必要となります。

長期履修について(博士前期・後期課程)

長期履修に伴う授業料納付額も含め、履修年次の長期化に柔軟に対応する制度を設けています。詳しくは、担当者までお問い合わせ下さい。

○ エンパワメント情報学プログラム

知能機能システム学位プログラムとの関係が深いエンパワメント情報学プログラム(一貫制博士課程)では、安全性、利便性、心の豊かさの向上など、様々な観点からの生活の質を向上させる工学システムを創出するために、人の機能を補完し、人とともに協調し、人の機能を拡張する情報学の未来を開拓しています。企業・病院・海外拠点の参画を得つつ、工学・芸術・ビジネス科学・臨床医学など、専門分野の枠を超えた研究も盛んです。詳しくは、エンパワメント情報学プログラムWebページ(www.emp.tsukuba.ac.jp)を参照してください。

○ デュアルディグリープログラム(DDP)

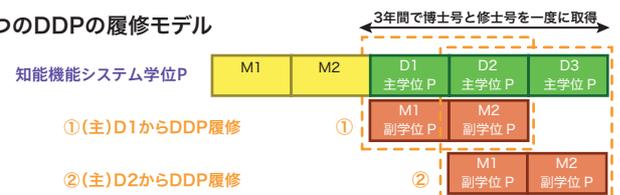
知能機能システム学位プログラム(博士後期課程)に在学しながら理工学分野以外の「副」となる学位プログラムまたは専攻(博士前期課程、修士課程または専門職学位課程)にも在学することで、博士(工学)の他に他分野の修士号を一度に取得できる制度です。

2024年度現在、9つの副学位プログラム(または副専攻)が履修可能です。知能機能システム学位プログラム(その前身である知能機能システム専攻も含む)ではこれまでに、2013年度に3名、2014年度に4名、2015年度に1名、2016~2018年度に2名、2019年度に1名および2021年度に1名がDDPを履修しています。入学料とDDP履修中の授業料は主学位プログラムの分のみしかかかりません。詳しくは、知能機能システム学位プログラムのWEBページをご覧ください。

DDP副学位プログラム群(2024年度現在)



二つのDDPの履修モデル



〇 入学試験について

博士前期課程の入学試験は、7月、8月、1-2月の3回実施されます。7月の推薦入試は、出身の大学や高専専攻科等に関わらず、推薦要件を満たせば受験できます。外国人留学生や連携大学院方式で入学希望の方も全試験区分で受験できます。さらに社会人を対象とした社会人特別選抜を8月と1-2月に実施しています。なお、全試験区分とも、本学工学システム学類以外からの受験者が不利にならないように、筆記試験は廃止しています。

博士後期課程の入学試験（一般入学および社会人選抜）は、8月、1-2月の2回に加えて、同年度入学の試験が7月に実施されます。これまでの研究内容、および、今後の研究計画についての口述試験を行います。また、社会人を対象とした社会人特別選抜も同時に行います。さらに7月には、内部進学希望者の中で特に優れた研究能力を持つ学生に対して、内部進学制度による選抜も実施しています。入学試験の詳細は、当該年度の募集要綱及び本学位プログラムのwebページの入試情報をご覧ください。

〇 アドミッションポリシーについて

学内、学外、社会人を問わず広く優秀な人材を求めるとを基本方針としています。入学者の選抜にあたっては、推薦入学試験、一般入学試験、社会人特別選抜などの入学選抜方式によって連携大学院や外国人留学生の区別なく多様な入学志願者に対応するとともに、募集定員を分割し同一年度内に複数回の入学試験を実施しています。

入学者の前所属分布

大学院生の半数は工学システム学類の知的・機能工学システム主専攻の卒業生ですが、本学他学類や本学以外の大学、高専専攻科出身者も多数います。後述のように社会人特別選抜や早期修了プログラムなど社会人の受け入れも積極的に行っています。また、筑波大学は、多くの国から留学生（国費/私費）を受け入れています。学位を取得する留学生の数も増加してきており、留学生のための語学研修や、個人チューターの制度も充実しています。

社会人の博士後期課程への入学について

本学位プログラムでは、博士の学位取得を考えている社会的経験を有する方々が、知能機能システム学位プログラムを受験しやすくすることを目的とした社会人入学枠を用意しています。博士後期課程の修了要件は、特別研究および論文発表演習関連科目合計12単位以上の取得と、指導教員による研究指導を受け、博士論文を提出して審査に合格することです。毎週決められた時間に出席する必要がある授業科目は取らなくてもよく、在職のままでも努力すれば十分に修了できます。

また、優れた研究業績があれば1年以上の在籍で早期修了することも可能です。一方で、仕事や育児・介護などの兼ね合いでゆっくり研究を進めたい場合は、授業料総額はそのまま3年の修業年限を最大5年まで延長し教育課程を履修する長期履修制度も用意されています。詳しくは希望指導教員にお問い合わせください。

< 博士前期課程 > 求める人材：知能機能システム分野の学習および研究に必要な数学力と英語力、数理的な思考力があり、修士の学位にふさわしい研究力、専門知識、倫理観を身に付ける資質をもち、かつ知能機能システム分野の専門技術者や研究者を目指す方

	7月実施	8月実施		1-2月実施	
入学時期	次年度4月				
試験区分	推薦入学試験	一般入学試験	社会人特別選抜	一般入学試験	社会人特別選抜
評価項目	試験区分にかかわらず外国語*と口述試験必須				
	-	成績証明書	成績証明書	-	-
選抜方針	当学位プログラムを第一志望とし、成績が優秀で知能機能システム分野の研究に必要な能力が特に優れた者を選抜します。	数学・英語等の基礎学力が高く、志望理由が明確で研究計画の具体性や着想の点で優れている者を選抜します。	これまでの研究または社会的経験を評価に加え、合否の判定も一般入学試験とは独立に行うことによって、意欲と能力のある社会人、または社会的経験を有する者を積極的に受け入れます。	数学・英語等の基礎学力が高く、志望理由が明確で研究計画の具体性や着想の点で優れている者を卒業研究（またはそれに代わるもの）も評価して選抜します。	これまでの研究または社会的経験を評価に加え、合否の判定も一般入学試験とは独立に行うことによって、意欲と能力のある社会人、または社会的経験を有する者を積極的に受け入れます。
募集人員	60名	57名	3名	12名	3名
合計	135名(予定、必ず募集要項で確認をしてください)				

< 博士後期課程 > 求める人材：知能機能システム分野の最先端の研究に必要な数学力と英語力、数理的な思考力があり、博士の学位にふさわしい研究力、専門知識、倫理観を身に付ける資質をもち、かつ知能機能システム分野における研究者または高度専門職業人として学術や社会の発展に貢献することを目指す方

	7月実施		8月実施		1-2月実施	
入学時期	同年度10月		次年度4月	次年度4月	次年度4月/10月	
試験区分	一般入学試験	社会人特別選抜	内部進学制度	一般入学試験	社会人特別選抜	一般入学試験
評価項目	試験区分に関わらず口述試験必須。内部進学制度・社会人以外は外国語*必須					
選抜方針	一定の研究力およびその他の能力を備え、標準年限での修了が見込まれる人材を選抜します。	研究力その他の能力に加え、社会人としての実績や経験を評価します。	知能機能システム学位プログラム博士前期課程修了予定者の中から、高い基礎力と研究力を備え、日本学術振興会特別研究員(DC1)への採用または本学位プログラムの早期修了が見込まれる人材を選抜します。	一定の研究力およびその他の能力を備え、標準年限での修了が見込まれる人材を選抜します。	研究力その他の能力に加え、社会人としての実績や経験を評価します。	一定の研究力およびその他の能力を備え、標準年限での修了が見込まれる人材を選抜します。
募集人員	若干名	若干名	若干名	10名	2名	2名+若干名
合計	16名(予定、必ず募集要項で確認をしてください)					

*TOEICの公式認定証またはTOEFLの受験者用スコア票またはIELTSの公式成績証明書を出願時に提出

